



音楽のよろこび

2023年 4月24日 No.48

発行文責 担当事務局

田中正恭 田村乃里子

2023年度開始にあたって……ご挨拶

100名を超える受講生の皆さまと、今年度もすばらしい音楽の世界へ……。

この講座は7年目をむかえることとなりました。この3年間コロナパンデミックで、皆さまも私共も困ったことがありました。しかし、この日々の中で芸術の音楽は決して「不要不急」のものではなく、人々が苦しみの中にある時こそ必要であり、人を人たらしめる欠くことのできないものとして、その意味がかえってクローズアップする事となったのではないのでしょうか。一つ二つ具体的に言えば、戦争のさなかにあるウクライナのキーウでも音楽会は継続されている。日本のある著名な音楽家は「音楽では腹いっぱいにはできないが、胸いっぱいにはできる」と、優しい言葉で名言を残している……その他「戦争と芸術」「人々の苦しみと音楽・芸術」等のテーマの歴史的掘り下げとも言える事象が、多くの音楽芸術家の行動や発言によってされてきているのです。この事は私達音楽を愛するものにとって、本当に我意を得たりの思いの日々でもあったのではないのでしょうか。

今年度もこの講座は、京響のすばらしい演奏家の皆さまをおむかえし、とにもかくにも平和のうちに、身近で生の演奏とお話を楽しむことができる。その事を喜びたく思います。どうぞ一年間よろしくお願いいたします。

第1回目の今日は、「ヴァイオリン」がテーマ、ピアノは揚原祥子（アゲハサチ）さんと京響安井優子（ヤスイユキ）さんの演奏とお話です。

プログラムは、ブラームス、プロコフィエフから。プロコフィエフのバレエ音楽「ロミオとジュリエット」は有名ですね。プロコフィエフは、1918年（大正7年）にロシア革命の混乱をさけて、アメリカに向かう道中、日本を訪れているそうです。その際、関西も観光し、奈良ホテルに滞在していました。東京の「帝国劇場」で、ピアノリサイタルも開いています。プロコフィエフは1891年ロシア（現ウクライナ東部）の生まれです。

♪ 2022年度 最終講座「ピアノ」佐竹裕介さんありがとうございました ♪

バッハインベンション15曲全曲演奏と、その1曲ずつの丁寧な解説、なかなか聴けない、聞けない内容でした。

アンケートを見ますと、受講生さんの中には何人も「インベンション」を弾いた、あるいは毎日弾いているという方がおられました。そして事務局スタッフの一人は、当日楽譜を持参し、見ながら聴かせていただきました。これは、事務局は当日より前にプログラムを見ることができたからできたのです。

この15曲には、その後のクラシック音楽のエッセンスとなる曲作りの技法が芸術の薫り高くコンパクトに（対位法・和声法……等）興味深く展開されていると私は教えられました（田中感想）そして、佐竹さん含めたくさんの音楽家がバッハの音楽を「聖書」のようなもの、…ととらえている事も知りました。



この内容を私たちに提供してくれた、ピアニスト佐竹裕介さんに感謝したいと思います。一年の締めくくりであると同時に次へのステップにふさわしい日だったのではないのでしょうか

～アンケートから～

いつもアンケートにご協力
ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したのもの
もあります。ご了承ください。

インヴェンション15曲すべて解説付きで演奏いただき、バッハの世界を垣間見る事ができました。バッハをはじめとするバロックの楽曲の印象は”くり返し”の美しさと感じていました。ただくり返すのではなく模倣やカノン、反復、輪唱とそれぞれの技法を駆使した構成となっているのを、佐竹先生の解説で初めて知り、バロック音楽を聴く楽しみが増えました。同じことを言い続ける、くり返す(ストレド)などのたたみかける旋律が私は好きで、疲れた時など、癒されていました。(人が話しているように聞こえていたのです)15曲もあるので途中緊張がとけてぼんやり聞いてしまいましたが、佐竹先生はずっと熱心に解説演奏いただきありがとうございます。バッハの長男様も作曲家ですか？(外村律子さま)

バッハの長男は、ヴィルヘルム・フリーデマン・バッハ (Wilhelm Friedemann Bach) バッハの子供は何人も作曲家がいます。またバッハの一族は200年間に50人以上の音楽家が出た家系です。一時は音楽家の代名詞ですらあったと音楽辞典にあります。

若いころ習っていたピアノを、50代から再開。しばらく憧れのショパンやリストに挑戦してきましたが、最近、昔習ったバッハをインヴェンションからもう一度練習し直し、何とも気持ちが落ち着くのに気づきました。今日のお話で、曲の構成など解説いただき、バッハの緻密さと深さを再認識できました。(稲田朋子さま)

郵送でのアンケートにご協力、ありがとうございます。

今日はバッハの魔術にかかったようです。今まで何げなく聴いていた曲に、いろんな仕組みがあったことがわかり。とても面白かったです。

熱い熱い佐竹先生talk。本当にピアノを好きで勉強熱心な佐竹さん、益々ファンになりました。「音楽家にとってバッハは、聖書のようなもの」バッハは音楽の基礎なのでですね。

バッハの息子への指導・教育の楽曲を詳しく解説しながらの演奏で、難しいところもありましたが、バッハの偉大さと心地よさを再確認できました。いろいろなものを盛り込みつつ、演奏しても聴いてもおもしろい、楽しいというのがさすがバッハだと思いました。(自分は演奏できないので、演奏者の気持ちは勝手な思い込みですが)(星野正幸さま)

バッハのインヴェンション第1番～15番 それぞれの曲の作風を説明しながらの演奏。左手と右手が他人のように鍵盤をたたき、まるで指の曲芸のように思いました。両手が一緒に曲を奏でると、心地よいリズムになる不思議な世界に引き込まれるようでした。曲の解説をして頂いて、分かったような分からないような感じ。演奏を聴いているとバッハは、やっぱりすごい人、演奏をする人もすごいなーと思いました。ピアノの音色も乾いた音で心に響くよいもので好きな音色でした。音楽は素人ですが、この教室で生演奏を聴き益々聴くのが好きになりました。

アナリーゼ、軽々として深い内容の演奏が素敵でした。歌いながら話していただくのが楽しかったです。時間ができて、毎日インヴェンションは弾いています。最高の時間ありがとうございました。

子供の頃、苦労したことを懐かしく思い出しました。大人になって解説を聞くととても面白く納得しました。ヴェートーベン、バッハ特集、次は誰かなと楽しみにしています。

バッハと言えば協奏曲しか聴いたことがなく、今回の「2世のインヴェンション」は初めて聴く曲でした。協奏曲のダイナズムと違って、軽やかでリズムカルな曲、新しいバッハを発見した感じでした。一年間学習してきて、まだまだ知らないことが多くあり、来期も楽しみにしています。佐竹先生のお話は、学術的で、僕には難しかったです。

解説文付き楽譜で演奏を聴きながら、先生の解説を聞ける機会をいただき、ありがとうございました。

~~~~~  
凄い！何げなく聴いた「2声のインヴェンション」ピアニストは凄いことをしているんだなあ！  
(田中邦彦さま)

~~~~~  
バッハのインヴェンションは、昔おさらいをしたことがあります。簡単そうでもとても難しかったことを覚えています。一つ一つの曲の解説を聞いたのは初めてだったので、きちんと机の上に楽譜をおいて、お話を聞きたかったです。ありがとうございました。

サッカーのワールドカップ、野球のWBC、そのどちらも、日本人のマナー、マナーを超えて「日本文化」が驚きをもって大歓迎されました。大谷翔平選手の記念すべきホームランボールをつかんだファンの手から、付近のファンのもとを順番に回り、最終的に最初の持ち主に戻ったことをさして、アメリカではありえない。

敬意とともに豊かな文化の上に、芸術が花開くと言えばよいのでしょうか。今まで、これからの日々潤いを頂きありがとうございました。(吉田太子さま)

~~~~~  
WBC、盛り上がりましたね。WBCは4年ごとに開催されますが、コロナ禍により延期され、6年ぶりの開催でした。「日本の文化」礼に始まり礼に終わる。試合終了後に整列し一礼する。デッドボールに帽子を取り謝罪。日本のマナーが絶賛されました。40%を超える視聴率に納得です。



この講座は、毎回皆様にアンケートをお願いしています。

アンケートは ①演奏家の皆さんへの受講性の皆さんの感想をお伝えするものとして…

②受講生の皆さんからの事務局へのご意見を表明する一つの手段として…

③アンケートの文面をこの小紙に載せることで、皆さん相互の交流をはかるものとして…

以上のような意味合いで行っています。ご協力お願いいたします。



★事務局メンバーは、田中・佐藤・中村・滝本・池田・田村  
6名が担当させていただきます。

毎回、他講座担当メンバーの応援も得て、運営をしております。

1年間どうぞよろしくお願いいたします。

尚、私たちは全てボランティアですが、皆さまと一緒に楽しく  
元気に講座運営にあたります。ご意見等ご遠慮なく！！



よろしく  
お願いいた  
します。

次回は5月22日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

「ハープ」 松村 衣里 さん

さて、弦は何本？ハープの種類は？

その演奏は？あまりにも情報の少ない楽器ですね。

優雅に見えるけど、本当は大変らしい！



メ 毛